

平成 19 年度千臨技細胞検査研究班精度管理実施要項

1. 目的

- ① 体腔液検体を用いた、パパニコロウ染色標本の適正な細胞判定。
- ② PAS 反応の実施と陽性物質の検出。
- ③ インターネットを利用したフォトサーベイによる適正な細胞判定。

2. 方法

1) パパニコロウ染色標本について

- a. 送付したものは、腹水（60 歳代 女性）を塗抹・パパニコロウ染色を施行した標本 1 枚です。
- b. 異型細胞を認めた場合には細胞の上・下方視野に点を付け挟んで下さい。
- c. 平成 19 年度千臨技細胞検査研究班精度管理調査用紙に、細胞判定を記載して下さい。
- d. 標本に施設名、施設番号を記載し、下記の送付先へ返送して下さい。

2) PAS 反応について

凍結標本はラップごと室温に放置し、乾燥した後開封して下さい。

乾燥していることを確認して、メタノールにて 15 分程固定し、乾燥させ、水洗し、染色操作に移ってください。

- a. 未染色塗抹標本が凍結して 1 枚配布されます。標本はパパニコロウ染色標本と同一検体を塗抹したものです。
- b. 標本を各施設の方法にて PAS 反応を行って下さい。
- c. パパニコロウ染色判定の参考になる細胞を認めた場合には細胞の上・下方視野に点を付け挟んで下さい。
- d. 平成 19 年度千臨技細胞検査研究班精度管理調査用紙に、必要事項を記載して下さい。
- e. 標本に施設名、施設番号を記載し、下記の送付先へ返送して下さい。

3) フォトサーベイについて

- a. アクセス方法は千臨技ホームページよりリンクして閲覧して下さい。
千臨技ホームページ： <http://www.chiringi.or.jp/>
- b. 設問は同定問題として 9 問、症例問題として 1 例出題します。
今年度は同定問題 1 問につき、2 枚の画像が提示されます。
同定問題、症例問題ともに提示した画像を判定し、選択肢の中から推定病変を選び、番号で解答して下さい。1～5 の番号以外での解答は全て 0 点とさせていただきますのでご注意ください。
- c. 同封の平成 19 年度千臨技細胞検査研究班フォトサーベイ細胞判定用紙に解答を記入し返送して下さい。一施設一解答をお願いします。
- d. インターネットにより平成 19 年 10 月 3 日より 10 月 26 日まで問題の閲覧が可能です。
また 11 月上旬より解答画面へと切り替わる予定ですのでご了解ください。

3. 評価

- 1) パパニコロウ染色における適正な細胞判定
- 2) P A S 反応の陽性物質の検出
- 3) インターネットによるフォトサーベイの適正な細胞判定

評価は基本的に細胞研究班研修会にて参加者全員で行います。

4. 包装内容

- 1) パパニコロウ染色標本 1 枚、P A S 反应用未染色標本 1 枚、紙マップ
- 2) 平成 19 年度千臨技細胞検査研究班精度管理実施要項（この用紙）

※平成 19 年度千臨技細胞検査研究班精度管理調査用紙

※平成 19 年度千臨技細胞検査研究班フォトサーベイ細胞判定用紙

以上の用紙は千臨技ホームページ：<http://www.chiringi.or.jp/> より各施設でダウンロードし、A 4 の用紙に印刷して使用して下さい。

5. 返送方法

- ・ パパニコロウ標本・P A S 反応を施行した標本（各 1 枚ずつ同封した紙マップに入れて下さい）
 - ・ 平成 19 年度千臨技細胞検査研究班精度管理調査用紙（ダウンロードし印刷後、記入したもの）
 - ・ 平成 19 年度千臨技細胞検査研究班フォトサーベイ細胞判定用紙（ダウンロードし印刷後、記入したもの）
- を返信用封筒に同封して送付先（下記）へ返送して下さい。返送費用は各施設でご負担下さい。
- （注意）染色標本の返送にあたっては標本の破損に十分注意して下さい。

6. 締め切り

平成 19 年 10 月 26 日（金）必着

7. 問い合わせ、送付先

〒277-8577 柏市柏の葉 6-5-1
国立がんセンター東病院 臨床検査部
村田 行則 宛 TEL 04(7133)1111 内線 2385

〔塗抹乾燥標本における P A S 反応の実施について〕

以下は、乾燥標本を用いた理由です。詳細については、報告会等で説明する予定です。

多くの施設では P A S 反応の固定法として、エタノールによる湿固定が行われていると思われる。また、エタノール固定中に起こる陽性物質の細胞質内での移動を防ぐ為に、ブアン液やカルノア液が推奨されており、実際これを行っている施設もあると思われる。塗抹乾燥の場合、細胞の構造は固定前の状態でスライドガラスに固着され、水分が洗われる為に構造の変化が少ない。よって、ブアン液やカルノア液と同様、陽性物質の移動が少なく、陽性所見がよりわかり易いと考えられる。

細胞が扁平化し、核クロマチンの凝集がみられないなど、湿固定を行ったパパニコロウ染色で見られる細胞との対比が難しい場合もあるが、P A S 陽性物質の検出を目的とし、乾燥塗抹標本を用いることとした。